

<令和6年5月28日理事会承認>

令和5(2023)年度事業報告

幼保連携型認定こども園
宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園
清武みどり幼稚園

令和 5 (2023)年度事業報告

幼保連携型認定こども園 宮崎学園短期大学附属
みどり幼稚園
清武みどり幼稚園

1 はじめに

令和 5 年度は、こども家庭庁の設置、こども基本法の施行、こども大綱、こども未来戦略の閣議決定等、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、国の大きな方針が出された制度改革の年であった。

両附属園では、令和 4 年度より「こどもから始まる みどりから始まる ～生きる根っこを育む保育～」を教育・保育目標とし、五感を通した豊かな遊びや活動を通して、お友達と夢中で遊び、新しい発見を楽しみ、自分や周りの人を大切できる子どもたちの育成に取り組んでいる。

本年度は、改革 2 年目として、大学・短大との連携のもと、子どもが中心となる教育・保育実践をより推進する一年とした。

みどり幼稚園では、「生きる根っこを育む教育・保育について考える ～『こどもから始まるみどりから始まる』子ども主体の保育実践」をテーマに、0 歳児から 6 歳児の全クラスを対象として公開保育を実施した。清武みどり幼稚園では異年齢児保育を導入し、大きな改革に挑戦した。

2 事業計画及び取組内容

事業計画	取組内容	達成状況・課題
(1) 21 世紀型教育・保育の実現	<ul style="list-style-type: none"> ①21 世紀型教育・保育導入の 1 年を検証しながら、さらに進展した保育のあり方を究明する。 ②国や全国の幼児教育・保育の動向についての、情報収集に努め、最先端の教育・保育を行う。 ③必要に応じて先進地視察を行う。 ④令和 4 年度より導入した 21 世紀型教育・保育の「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」をはじめ年齢別年間指導計画や各種計画をさらに精査していく。 ⑤目指す教育・保育の実現のために必要な絵本や玩具、園庭等の環境整備を順次進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ① みどり幼稚園では、令和 6 年 1 月 6 日に、お茶の水女子大学の宮里暁美先生、刑部育子先生に来園頂き「生きる根っこを育む教育・保育について考える ～『こどもから始まる みどりから始まる』子ども主体の保育実践」をテーマに、0 歳児から 6 歳児の全クラスを対象として公開保育を実施した。清武みどりの職員が、シェア会の司会を担当するなど両園が協力しての実施となった。県内、短大、大学から 61 人が参加した。 ② 教育・保育の質向上に向けて、全国認定こども園研修研究機構主催の「自己評価研修会 I」を計 7 人（みどり 6 人、清み 1 人）が受講し、両園ともに「幼保連携型認定こども園教育・保育要領自己評価実践園」（分野マネジメント）（全国認定こども園研修研究機構認定）の認定証を頂いた。 ③ 12 月に 4 人の職員が三重県、愛知県への先進地視察を行った。 ④ 年間 4 回の保育環境改善プログラムによる子ども主体の保育の研修会を実施し、職員の子ども理解がより進んだ。「育児担当制」の導入により、3 歳未満児が安定した姿で日々を過ごしており、人的環境も含めて環境を整えることの重要性を改めて学んだ。 ⑤ 絵本、玩具等を子どもたちの興味・関心に基づき補足した。清武みどりでは、未満児用砂場、大型遊具を設置し、園庭環境を整えた。

		<p><課題>子どもの姿から出発する保育をさらに展開することが不可欠である。</p>
<p>(2)教育・保育環境の充実</p>	<p>①保育室におけるコーナー保育の展開・発展 ②園庭自然環境の整備（こどもの気づきを促す、お庭づくり） ③絵本の読み聞かせを通しての豊かな感性の醸成 ④多様な園外保育の実施（梅ちぎり、芋掘り、みかん狩り、施設見学、園周辺散策等） ⑤特色ある教育・保育活動の推進（英語であそぼう、音であそぼう、ボールであそぼう） ⑥クラスや学年、縦割り等の多様な集団での活動の推進 ⑦異年齢保育の導入【清武みどり】</p>	<p>① 知育玩具を導入し遊びを選べる環境が整ったことで、一人ひとりの子どもの発達に合った遊びが展開された。知育玩具にプラスして、季節感あふれる環境が準備されたクラスが数多くあった。</p> <p>② 園庭環境では、清武みどりで未満児用の滑り台や砂場が設置でき、海砂の利用により子どもの砂場での体験の幅が大いに広がった。</p> <p>③ 日々の絵本の読み聞かせを通して、ミュージカルへの展開や作品づくり等、豊かな感性の醸成へとつながった。また、保護者による読み聞かせも8回（みどり）、16回（清武みどり）実施できた。</p> <p>④ 多様な園外保育や子ども主体の行事、季節にあった園外保育を楽しんだ（梅ちぎり、交通公園、フローランテ宮崎、青島、大淀川学習館など）。</p> <p>⑤ 英語であそぼう、音であそぼう、ボールで遊ぶを予定通り実施した。</p> <p>⑥ 園庭でも多様な鬼ごっこや泥遊び、縄跳び遊び等、職員が工夫を凝らした遊びが展開され、未満児と以上児の交流や学年を超えて遊んだり、他児をまねて一緒に遊びを楽しんだりする姿が多くあった。</p> <p>⑦ 以上児クラスの異年齢児保育では、4・5月の思い通りにならない、何かとトラブルが起こる混乱期を経て、そこで出てきた課題を改善しながら保育を進めていった。様々な違いがあることを徐々に受け入れ、伝え方の工夫をするなど、子ども同士の中でも相手を思いやる姿や自信をもってやって見せる姿など、さまざまな姿を見ることができた。【清武みどり】</p> <p><課題>保育室内環境がクラスごとに異なったため、クラス間の体験の質が統一できなかった。【みどり】</p> <p>子どもの遊びから何かの興味に繋がっていく体験が不足しており、保育者の仕掛けと環境構成が課題である。【清武みどり】</p>

<p>(3) 豊かな心を育む教育・保育環境の充実</p>	<p>①一人ひとりの子どもたちを大切に、丁寧な保育による基本的な信頼関係の構築 ②自然事象や動植物に触れる機会や環境の整備 ③異年齢児交流や地域との触れ合い活動等を通して「思いやり」や「ありがとう」の気持ちの醸成</p>	<p>① 3歳未満児においては、育児担当制を導入したことにより、基本的信頼関係を構築でき、子どもたちが安定した日常を送ることができた。3歳以上児においても、子どもの声に耳を傾けることに注力したことにより、一人ひとりを大切にす保育に取り組むことができた。 ② 園外保育を通して、自然事象や動植物に触れる機会を増やした。 ③ 園庭等での異年齢児との交流は、子どもたちの優しさ醸成につながっていった。</p> <p><課題>自然事象や動植物に触れる機会や園庭環境の整備が課題である。</p>
<p>(4) 健康・保健・安全面に配慮した教育・保育環境の充実</p>	<p>①保育環境の整備と危機管理体制の充実 ②交通安全教室の実施 ③毎月の避難訓練及び安全点検の実施 ④感染予防対策の徹底と清潔の保持、及び保護者への情報提供と共有 ⑤園医による内科検診及び歯科検診の実施 ⑥学校薬剤師による定期検査適宜指導及びエピン研修の実施</p>	<p>① ②③④⑤⑥ 避難訓練12回、不審者訓練1回、安全教室2回、エピペン研修1回、救急救命講習1回、内科検診2回、歯科検診1回、学校薬剤師による定期検査6回を計画的に実施した。 8月に、業務継続計画（BCP）を新たに策定し、危機管理体制を強化した。 みどり幼稚園では、3月に宮崎北警察署との合同避難訓練を実施し、地震から津波発生を想定し、交通を遮断して園から大坪記念ホールへと非難する訓練を実施した。地震発生連絡から11分で全園児の避難が完了でき、安全性確保に向けての見通しを持つことができた。【みどり】</p>
<p>(6) SDGs</p>	<p>①食に関する指導の充実（SDGs 目標 2 関連） 【みどり／清武みどり】 ②保護者と連携し、ペットボトルキャップを収集する。（SDGs 目標 12 関連）【みどり】 ③自然環境についての関心を高める（SDGs 目標 7, 14, 15 関連） 【みどり】 ④毎月一回、給食会議を行い、園児の食の実態を把握し、こども園としての食育の充実を図る。</p>	<p>① ④ 給食時に、子どもと食べながら献立や食材についての話を取り入れていた。給食会議（年間12回実施）の中では離乳食、アレルギー、献立など、食べるのが楽しく、安全であるようにという観点から、話し合いを行った。 ② ペットボトルキャップの収集は、学園高校との連携で行った。保育の中でも宇宙や地球の環境について考える連続した保育が行われたクラスがあり、子どもたちがSDGsについて学ぶ機会になっていた。【みどり】 ③ 絵本をきっかけに海がごみで汚れていることを知り、年長児が青島へ出掛け、ごみ拾いをした。「自分達が食べている魚はごみを食べている」「ごみを捨てているのは大人だ」など様々な意見が出ると共に、波で割れたシーグラスに興味を持ち、集めるとともに、海の生き物が暮らしやすい海について考えるなどした。【清武みどり】 日常の保育で、節水、節電の話をし、自然環境保護への意識を高めた。</p>
<p>(7) 考える力のもとを育てる</p>	<p>①動植物や季節等、自然の変化に気づける場の設定</p>	<p>① ②③ 自然との関わりを目指した保育に取り組むため園庭の樹木や草花を整えたり、樹木を整備する</p>

教育・保育環境の充実	②園児一人一人の気づきを表現させる場の設定 ③園児一人一人が遊びを工夫する場の設定	ことに取り組んだことで、色水遊びや泥・水遊びなど、学年を超えて遊びが広がるきっかけが多くあった。 <課題>季節を感じる植物や昆虫などの生き物があると、より一層、気づきや工夫が生まれやすい。そのためにも園庭環境の充実が課題である。
(8) 附属園としての教育実習・保育実習の充実	①短大・大学の保育者養成校と連携し、子どもが主体となる教育・保育を実践し、学生の実習の充実を図る ②実習記録において、時系列、ドキュメンテーション、エピソード記録等を導入する。	① ② 教育実習では連続性のある保育、ドキュメンテーション記録に取り組み、学生にも子ども主体の保育についての理解が深まった。実習記録簿の新たな記録方法導入2年目となり、ドキュメンテーションやエピソード記録が充実してきた。
(9) 「人材育成制度 A&A チェック」活用による教職員の資質向上	①教職員の職能向上や日々の保育の充実を図るための職員との個別面談や学期毎の自己評価シートによる振り返りの実施 ②年2回、保育者自己評価チェックリストをつけ、子どもの人権への意識を向上させる。	① 昨年度より新しい保育を取り入れたことから、職員との対話を増やすことを心がけた。A&Aを実施する中でそのことについての職員間の理解が進んだ。 ② 年度末には6人の職員が自己評価研修会を受講したことにより、自己評価の意識を高めることができた。 <課題>こどもの人権・人格の尊重への意識向上が課題である。
(10) 研修参加に対する保育者の意識改革	①職員自らのキャリアアップを図るために必要な研修への積極的参加の推進	県キャリアアップ研修 10 回、幼稚園協会 10 回、認定こども園研修 12 回、計 32 回の研修に参加し、全職員がキャリアアップに必要な研修を受講することができた。非常勤職員 3 名もキャリアアップ研修を受講した【みどり】。 清武みどり幼稚園では県キャリアアップ研修 2 回、幼稚園協会 4 回、「ゆたかなマナビ」4 回、認定こども園研修 1 回、計 11 回の研修に参加し、全職員がキャリアアップに必要な研修を受講することができた。非常勤保育教諭も 1 名キャリアアップ研修に参加した。そのほか、ICT を保育に取り入れるための研修や公開保育（宮崎大学附属幼稚園）などにも参加した。【清武みどり】 <課題>それぞれが学んできたことを共有する時間がとれず、今できていることは職員会議で口頭で伝えることと、各自の役割で活かすことのみである。 【清武みどり】
(11) 園内研修の推進	①園としての組織力や教育力・保育力向上のための研修報告会や園内研修の実施 ②保育環境改善プログラ	① 大学・短大の幼児教育・保育センター主催のお茶の水女子大学の宮里暁美先生を招聘しての特別講演会では、最先端の保育を学ぶ機会となった。 ② 保育環境改善プログラム年間4回（第1回：ごっ

	ム2年目の研修を行う	こ遊びと愛着 第2回：製作遊び 第3回：積み木遊びの基礎知識 第4回：まんだらぬりえ)、 両園合同研修3回を実施できた。
(12) 子育て支援	<p>①乳幼児期の教育・保育センターとしての役割を果たす。</p> <p>②一時預かり（幼稚園型／預かり保育）の充実</p> <p>③未就園児の体験教室や子育て相談会を定期的 に開催し、内容の充実を図る。</p> <p>④子育て支援センター設置に向けての検討を行う（みどり幼稚園）</p> <p>⑤学童保育実施に向けての検討を行う（清武みどり）</p> <p>⑥4月以降に満3歳となる1号認定クラスを新設する【みどり】</p>	<p>① ③④</p> <p>にこにこルームを10回開催し、総計143組の親子【みどり】、153組【清武みどり】が参加した。子育て相談会などの開催には至らなかったが、にこにこルームは、次年度の入園希望児への広報的な意味合いを持った。総参加者のうち、みどりは13%、清武みどりは5.2%が入園した。また、8月には大友剛氏を招いてのコンサートを開催し、その際にはにこにこルーム参加者に声掛けをした。【みどり】</p> <p>両園では、看護師を採用し、令和6年度より病児保育事業の「体調不良児対応型」に着手することで、子育て支援に資することとした。</p> <p>⑤清武みどり幼稚園では、学童保育の導入について検討したが、職員数の確保と質の維持の観点から導入は見送りとした。</p> <p>⑥ みどり幼稚園では、満3歳児4人、清武みどり幼稚園では3人が年度内に入園した。</p> <p><課題>②清武みどりにおいては、一時預かり（幼稚園型／預かり保育）の充実及び満3歳児受け入れにより、園児確保が課題である。</p> <p>両園、園外への情報発信が不足しているため、HPやInstagramの更新充実が望まれる。</p>
(13) 施設・設備の改善充実	①安全な環境で安心して教育・保育ができる施設・設備の整備	技術員を複数採用したことにより、施設・設備の整備及び園内の環境美化を努めることができた。